



日鉄鉦業株式会社

2021年度（2022年3月期） 決算説明資料

証券コード：1515

2022年5月10日

決算説明資料 目次

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. 2021年度 連結決算概要 | ・・・P.3 |
| 2. 2021年度 セグメント別連結決算概要 | ・・・P.5 |
| 3. 貸借対照表 | ・・・P.13 |
| 4. 中期経営計画との比較 | ・・・P.14 |
| 5. 2022年度業績予想 | ・・・P.17 |
| 6. 株主還元方針 | ・・・P.20 |

1. 2021年度 連結決算概要

- 売上高は、鉱石部門における石灰石の増販や、金属部門における銅価上昇の影響により、増収となった。
- 営業利益及び経常利益は、鉱石部門と金属部門における増収等により、増益となった。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益の増加により、増益となった。

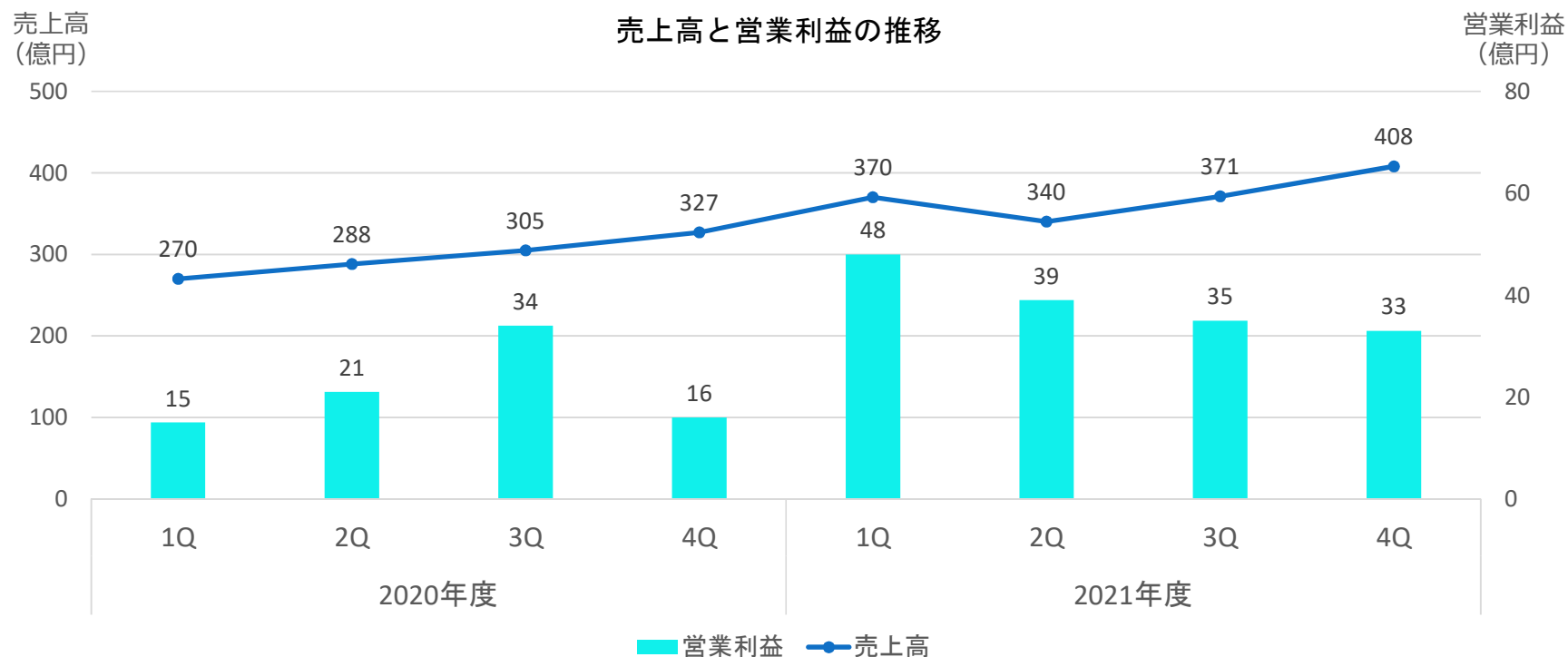
(単位：億円)

<業績>	2020年度	2021年度	増減
売上高	1,191	1,490	299
営業利益	87	157	69
経常利益	96	166	69
親会社株主に帰属する 当期純利益	37	92	55

<指標等>	2020年度	2021年度	増減
ROA (総資本営業利益率)	4.6%	8.1%	3.5%
自己資本比率	58.9%	60.7%	1.8%
銅価格 (¢/lb)	312.01	439.59	127.58
為替レート (円/米ドル)	106.06	112.38	6.32

1. 2021年度 連結決算概要 業績推移（四半期）

- 2020年度は、金属部門においては銅価上昇に伴い増収傾向となった一方、鉱石部門においては上期の鉄鋼メーカーの高炉一時休止による石灰石の減販の影響や、第4四半期には火災事故の影響による減収要因があった。
- 2021年度は、鉄鋼需要の回復による石灰石の増販と銅価の高値維持による増収の影響で、好調に推移した。



2. 2021年度 セグメント別連結決算概要（売上高）

（単位：億円）

	2020年度	2021年度	増減	増減説明
資源事業：鉱石部門	497	543	46	石灰石 増収：鉄鋼需要の回復の影響による増販 燃料その他 増収：石油製品の販売価格の上昇
資源事業：金属部門	537	787	249	電気銅 増収：銅価上昇、円安の進行 銅精鉱 増収：銅価上昇 その他 増収：金の増販
機械・環境事業	110	113	2	環境商品 増収：水処理剤の増販
不動産事業	28	28	0	前期なみ
再生可能エネルギー事業	17	17	0	前期なみ
合計	1,191	1,490	299	鉱石部門+46億円、金属部門+249億円、機械・環境事業+2億円

2. 2021年度 セグメント別連結決算概要（営業利益）

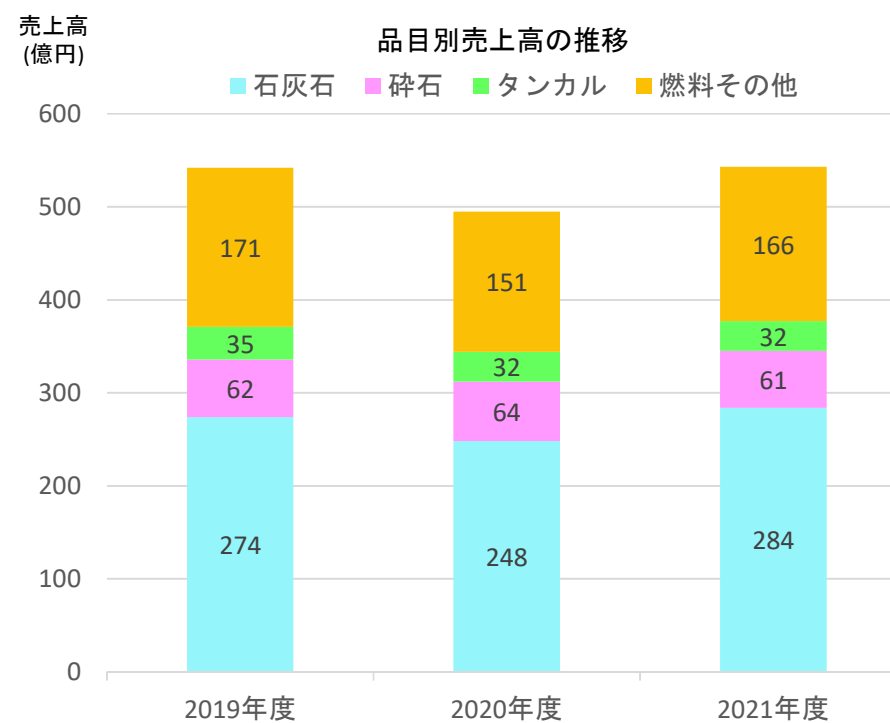
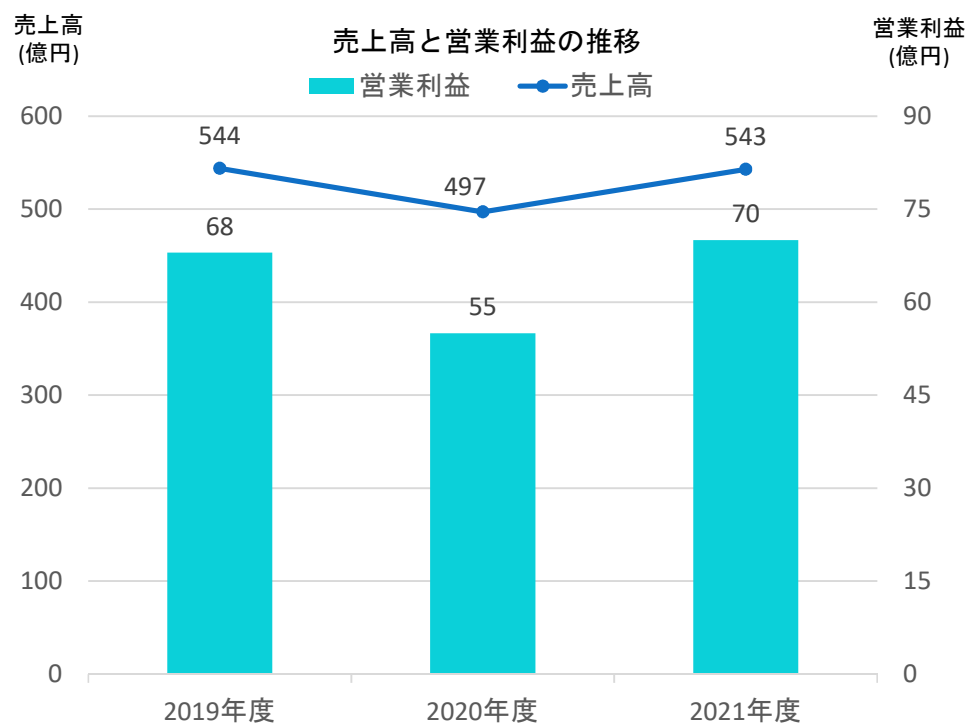
（単位：億円）

	2020年度	2021年度	増減	増減説明
資源事業：鉍石部門	55	70	15	石灰石の増販により増益
資源事業：金属部門	17	72	54	銅価上昇、円安の進行の影響により増益
機械・環境事業	10	10	△0	前期なみ
不動産事業	16	15	△0	前期なみ
再生可能エネルギー事業	4	5	0	前期なみ
調整額	△16	△16	△0	前期なみ
合計	87	157	69	鉍石部門+15億円、金属部門+54億円

2. 2021年度 セグメント別連結決算概要

資源事業：鉱石部門

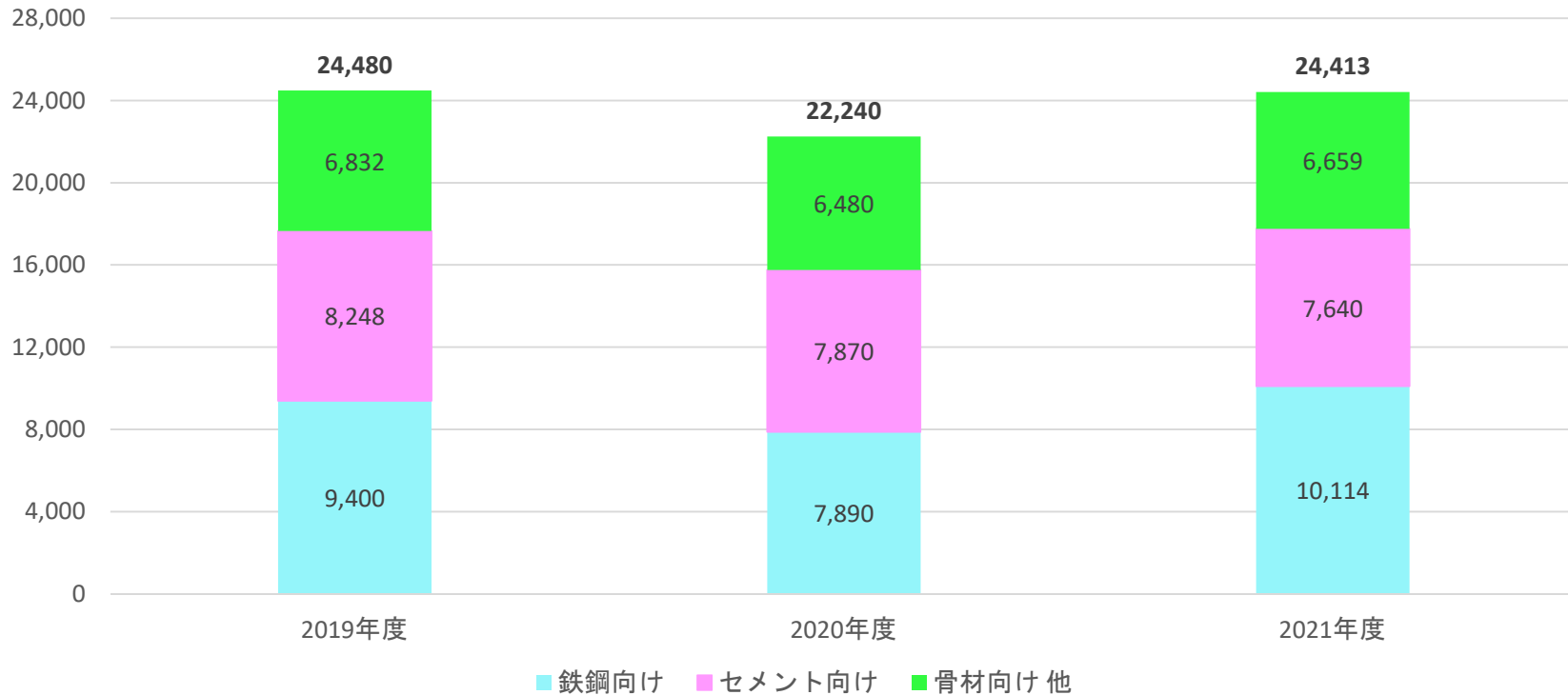
- 鉱石部門は、主力生産品である石灰石の販売数量が増加したこと等により、売上高、営業利益ともに増加した。



資源事業：鉱石部門 (参考) 用途別石灰石販売数量の推移

単位
(千 t)

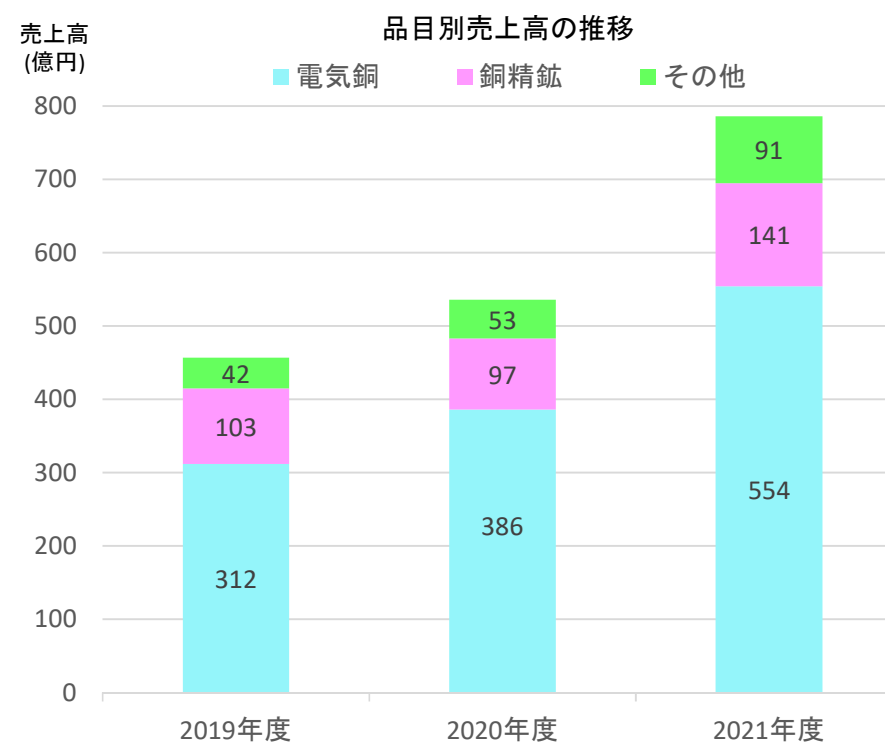
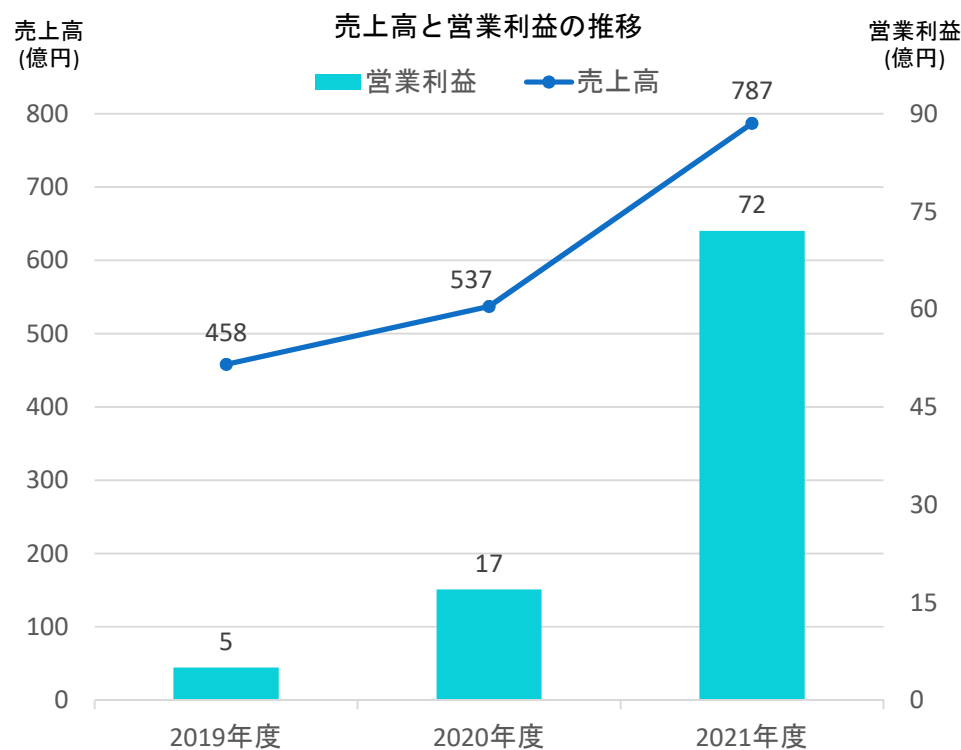
用途別石灰石販売数量の推移



2. 2021年度 セグメント別連結決算概要

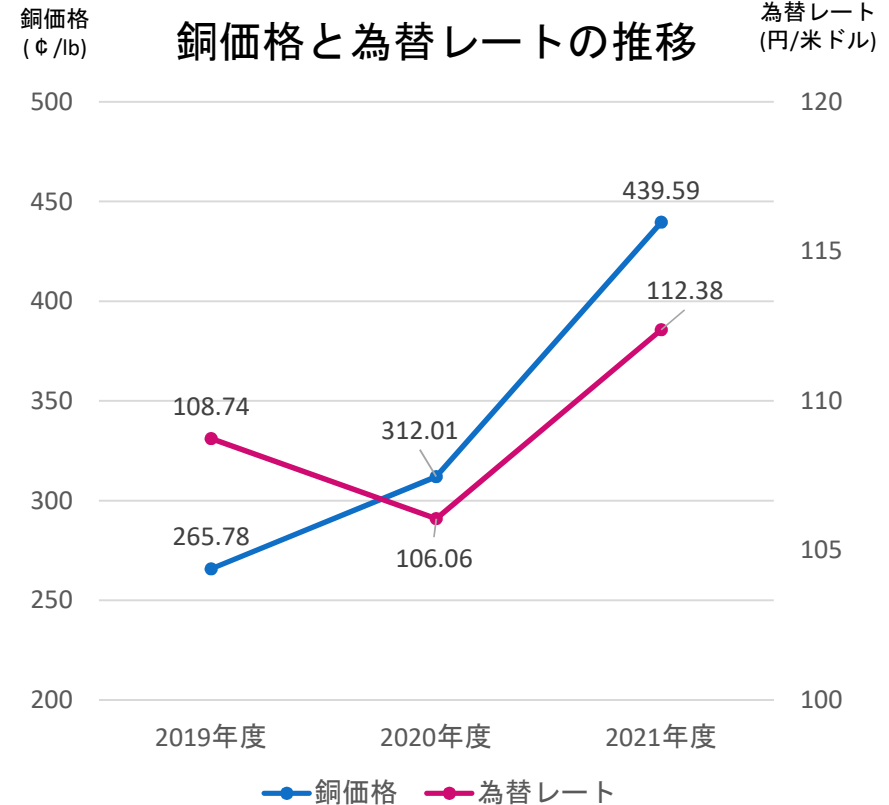
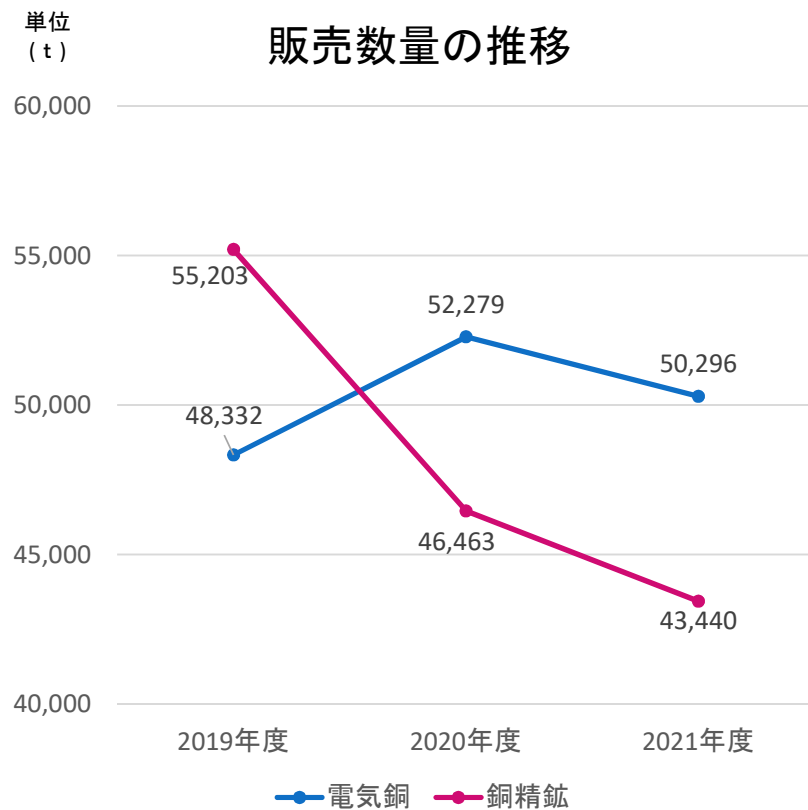
資源事業：金属部門

- 金属部門は、電気銅と銅精鉱の販売数量は減少したが、銅価の上昇及び円安の進行により、売上高、営業利益ともに増加した。



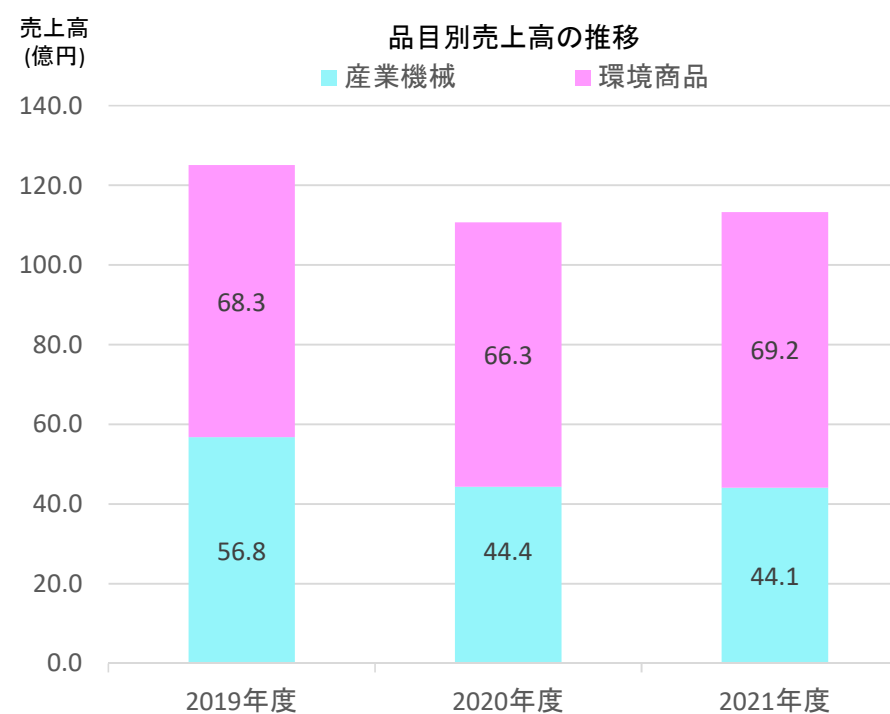
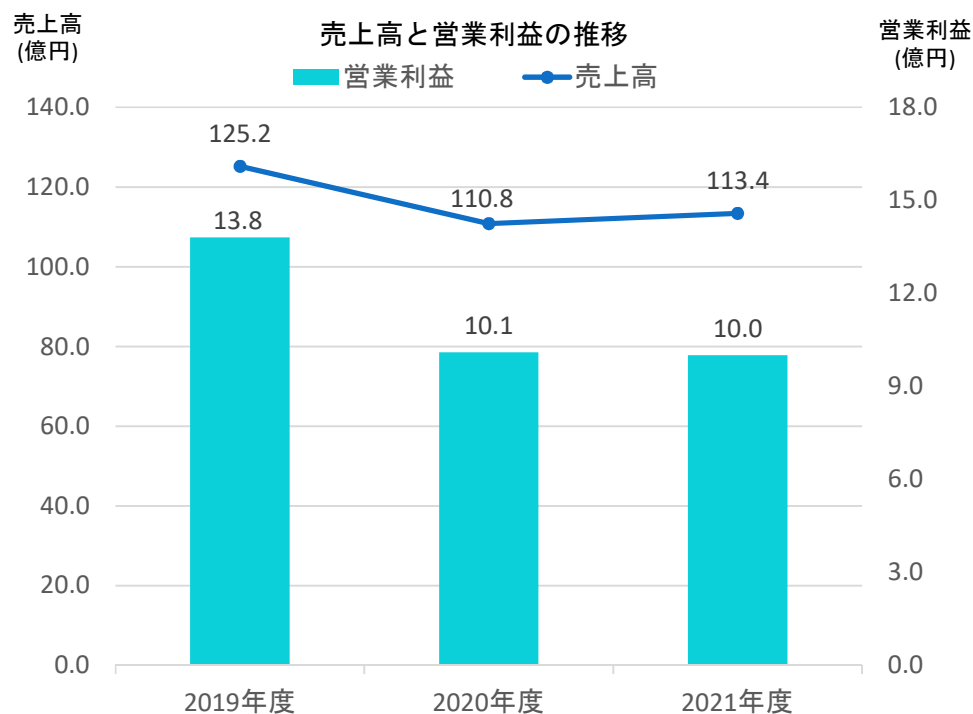
資源事業：金属部門

(参考) 販売数量の推移、銅価格と為替レートの推移



2. 2021年度 セグメント別連結決算概要 機械・環境事業

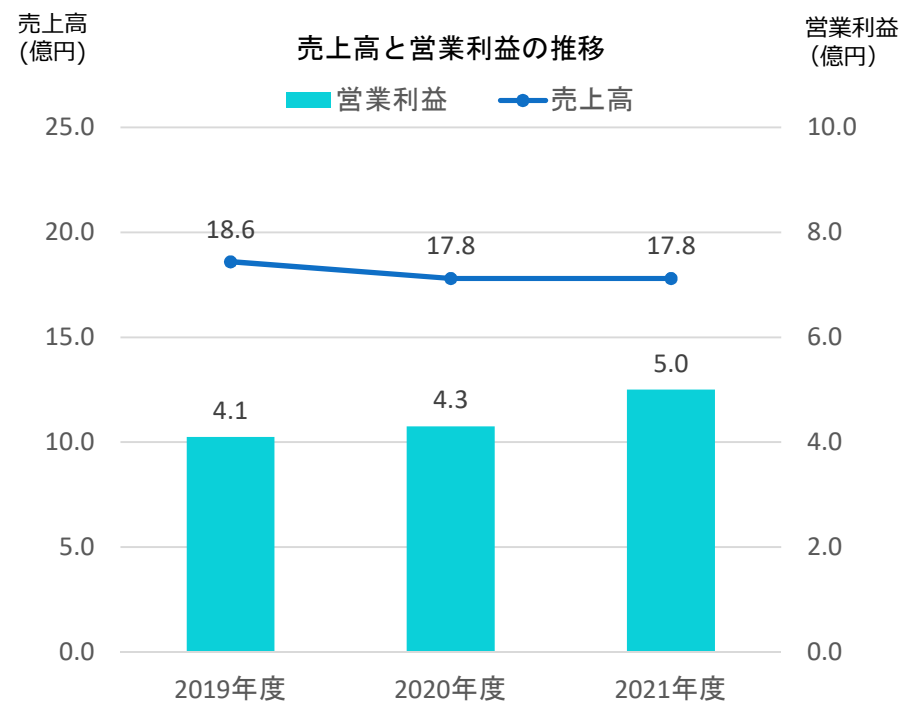
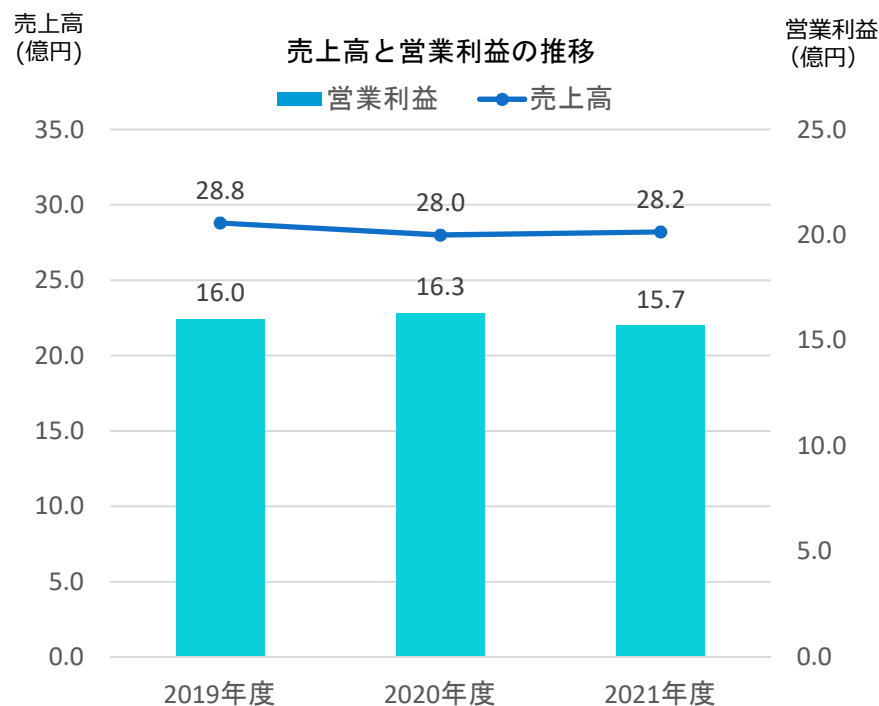
- 機械・環境事業は、売上高は環境部門の主力商品である水処理剤の増販により増加したが、営業利益は一部機械関連子会社における販売が低調に推移したため減少した。



2. 2021年度 セグメント別連結決算概要 不動産事業、再生可能エネルギー事業

- 不動産事業は、売上高は賃貸物件の順調な稼働により増加したが、営業利益は修繕費の増加により減少した。

- 再生可能エネルギー事業は、売上高は前期なみとなったが、営業利益は減価償却費の減少等により増加した。



3. 貸借対照表（連結）

（単位：億円）

	2021年3月31日	2022年3月31日	増減
流動資産 計	878	897	18
現金及び預金	355	332	△22
受取手形、売掛金及び契約資産	276	307	31
たな卸資産※	192	206	13
固定資産 計	1,008	1,080	71
有形固定資産	625	671	45
無形固定資産	33	36	2
投資その他の資産	349	373	23
流動負債 計	481	469	△12
支払手形及び買掛金	175	146	△29
短期借入金	164	159	△5
固定負債 計	241	244	2
長期借入金	50	48	△2
退職給付に係る負債	44	37	△6
純資産	1,164	1,263	99
自己資本	1,110	1,200	89
非支配株主持分	53	62	9
総資産	1,887	1,977	89
<自己資本比率>	58.9%	60.7%	1.8%

※たな卸資産 = 商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品

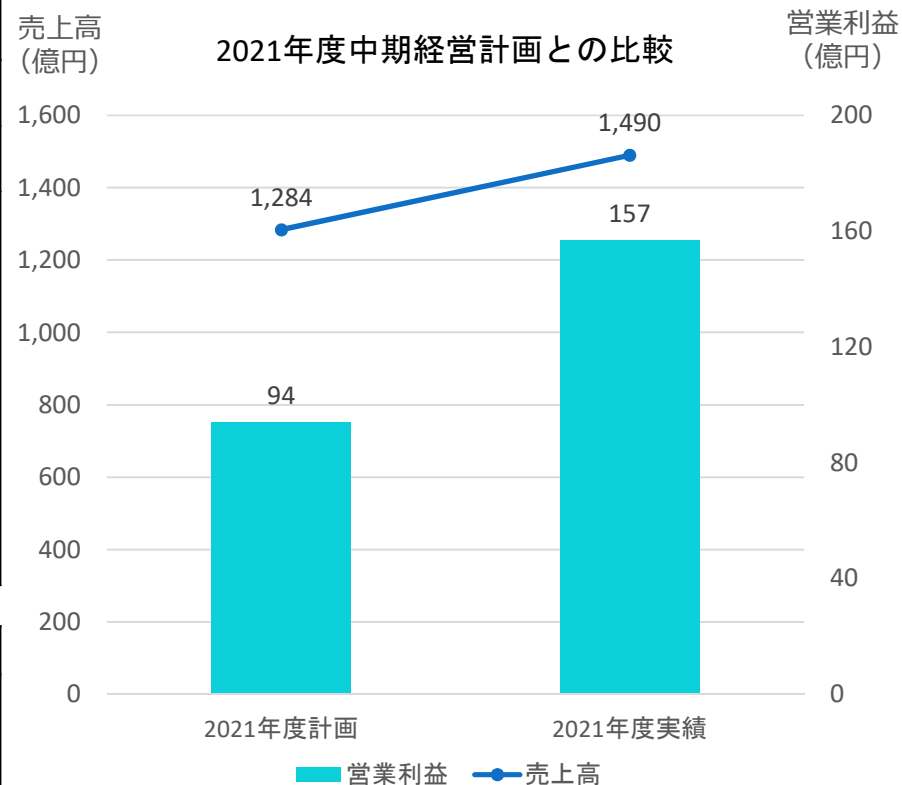
4. 2021年度 中期経営計画の比較（連結）

◆ 2021年度の売上高、営業利益は計画を上回る結果となった。
⇒主な要因：資源事業 金属部門の銅価上昇等による増収、増益

（単位：億円）

<業績>	2021年度計画	2021年度実績	増減
売上高	1,284	1,490	206
営業利益	94	157	63
資源事業：鉱石部門	66	70	4
資源事業：金属部門	26	72	46
機械・環境事業	10	10	—
不動産事業	15	15	—
再生可能エネルギー事業	4	5	1
調整額	△26	△16	10

<前提条件>	2021年度計画	2021年度実績	増減
銅価格（¢/lb）	350.00	439.59	89.59
為替レート（円/米ドル）	105.00	112.38	7.38



4. 2021年度 中期経営計画との比較（資金・設備投資）

■ 資金計画

（単位：億円）

	2021年度計画	2021年度実績	増減
EBITDA	152	211	59
有利子負債残高	215	207	△8

■ 設備投資計画（生産準備投資含む）

（単位：億円）

	2021年度計画	2021年度実績	増減
資源事業：鉱石部門	111	104	△7
資源事業：金属部門	6	5	△1
機械・環境事業	1	1	—
不動産事業	0	0	—
再生可能エネルギー事業	3	0	△3
共通・セグメント間消去	1	△1	△2
計	121	110	△11

- ・ 2021年度のEBITDAは、営業利益の増益に伴い増加し、有利子負債は借入金の返済により減少した。
- ・ 設備投資は、鳥形山第3立坑建設工事について、投資予定総額が排水設備仕様変更等の追加工事により5億円増加し、工事完了が2022年度末から2023年度中の予定となった。

■ 成長投資の進捗

（単位：億円）

	2021年度計画	2021年度実績	増減	投資予定総額	累計	進捗率	完工予定
鳥形山第3立坑建設工事	57	48	△9	196 (196)	137	69%	2023年度中
八戸鉱山新規鉱区開発	13	15	2	62 (56)	42	67%	2024年度中
アルケロス鉱山開発工事	—	—	—	212 (155)	—	—	2024年度中

※投資予定総額の（ ）は、中期経営計画期間末までの予定額で内数。

4. 2021年度 中期経営計画との比較（株主還元方針）

第2次中期経営計画の方針である「**連結配当性向30%を目途に還元**」により配当。

	中間	期末	年間	配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当率 (連結)
2021年度	135円	200円	335円	27億円	30.0%	2.4%

5. 2022年度業績予想

(単位：億円)

	2021年度実績	2022年度予想	増減
売上高	1,490	1,500	10
営業利益	157	110	△47
経常利益	166	115	△51
親会社株主に帰属する 当期純利益	92	60	△32
1株当たり当期純利益 (円)	1,115.46	721.28	△394.18
銅価格 (¢ / lb)	439.59	410.00	△29.59
為替レート (円 / 米ドル)	112.38	120.00	7.62
1株当たり配当額 (円)	335	217	△118

(感応度)

(単位：億円)

銅価格	10 ¢ / lb 上昇	売上高への影響 営業損益への影響	+17.0 +3.2
為替レート	5円 / 米ドル 円安	売上高への影響 営業損益への影響	+29.0 +3.0

5. 2022年度業績予想（セグメント別）

■セグメント別売上高、営業利益

（単位：億円）

	売上高		
	2021年度 実績	2022年度 予想	増減
資源事業：鉱石部門	547	558	11
資源事業：金属部門	787	787	－
機械・環境事業	120	123	3
不動産事業	28	28	－
再生可能エネルギー事業	17	16	△1
調整額	△10	△12	△2
合計	1,490	1,500	10

営業利益		
2021年度 実績	2022年度 予想	増減
70	77	7
72	46	△26
10	9	△1
15	15	－
5	4	△1
△16	△41	△25
157	110	△47

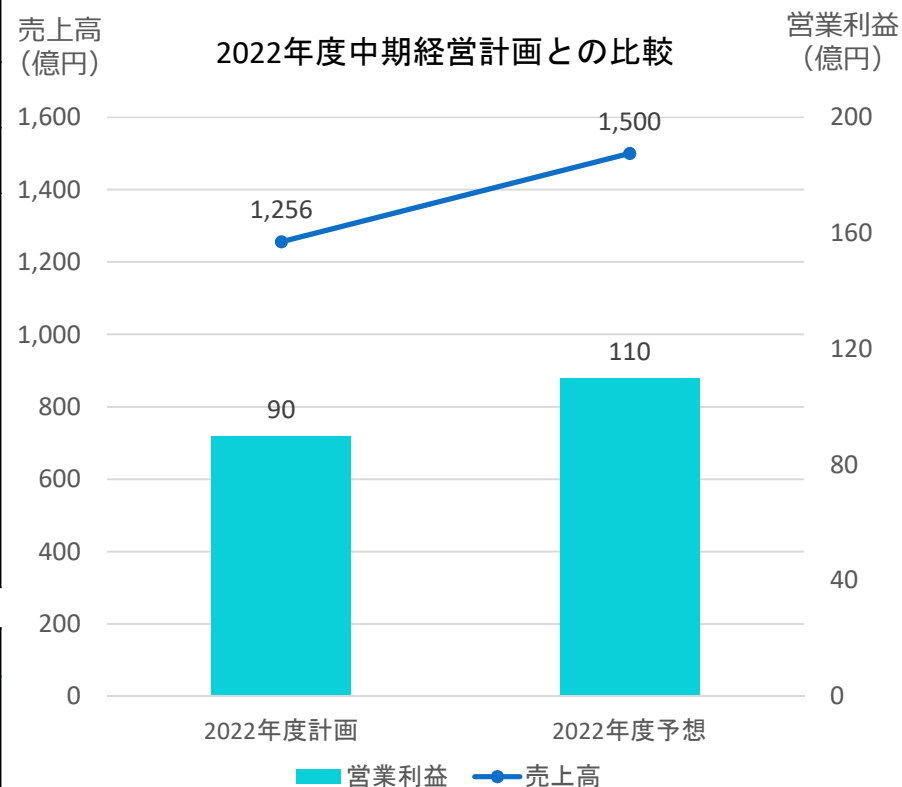
5. 2022年度業績予想 中期経営計画との比較（連結）

◆ 2022年度の売上高、営業利益は計画を上回る見通し
 ⇒主な要因：資源事業 鉱石部門の石灰石の増販および金属部門の銅価上昇等

(単位：億円)

<業績>	2022年度計画	2022年度予想	増減
売上高	1,256	1,500	244
営業利益	90	110	20
資源事業：鉱石部門	63	77	14
資源事業：金属部門	21	46	25
機械・環境事業	10	9	△1
不動産事業	14	15	1
再生可能エネルギー事業	4	4	—
調整額	△23	△41	△18

<前提条件>	2022年度計画	2022年度予想	増減
銅価格（¢/lb）	350.00	410.00	60.00
為替レート（円/米ドル）	105.00	120.00	15.00



6. 株主還元方針

2021年度～2023年度：連結配当性向 30%を目途に還元

当社の主力事業である鉱山業は、調査から開発、その後の操業期間も数十年以上という非常に長期間にわたる事業です。その間には資源価格の変動などによる利益の増減が発生しますが、ライフサイクルが長いという事業特性と、持続的成長を目的とした将来の投資へ備えるため、自己資本の充実と株主還元の最適なバランスを図りながら、長期安定的な配当を実施します。

(参考) 連結配当性向実績と予想

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (予想)
17.1%	16.6%	22.2%	30.0%	30%目途

注意事項

将来に関する記述等についてのご注意

- 本資料における業績予想等の将来に関する記述につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



日鉄鉱業株式会社